

私たちの「学び」を考えるパネルディスカッション 開催されました

2024年
(令和6年)
1月29日



藤森先生、村瀬先生と 浅間中学生徒5名のパネリストと全校生徒 によるパネルディスカッション

「学び」とは何か、という難しいテーマについて、有識者を招いて、全校生徒で考え合いました。

藤森先生と村瀬先生は、下記のように「学び」について考えていることを紹介。「今回、何かはっきりするというよりも、『?』が増える、そんな会にしたい」とパネルディスカッションがスタートしました。

パネリストの生徒はノー原稿。
「友だちとのちがいをまとめていくのが学び」
「いろいろな角度から考えるのが学び。生徒会で学んだ」
などなど、自分の考える「学び」についての発言を堂々していました。

村瀬先生から「『学べない』ときや苦手な『学び』はなに？」という問いかけが。パネリストの生徒からは、「座っているだけ、書くだけのとき」「同じことの繰り返しが苦手」「正解が一つのもの」などの意見が。



フロアからも発言が相次ぐ

「『受け身』とか、『単調』・『反復』などのキーワードが上がってきたけど、例えばアスリートや運動するときには、こういったことは必要だね」と藤森先生の問い返しがあり、パネリストも考え込んでしまいました。

しかし、ここからフロアからも意見が相次ぎました。全校の前で挙手。そして当然ノー原稿での発言。たいしたものです。「自習室みたいなのがあれば、そこで学べる」「私は『覚える学び』が好き。気合と根性でなんでも覚える『学び』」「自分の考えていることを話す。他の人の意見を聞くことが楽しい」「教科の中でしか学べないことを学ぶ」などなど。

あっという間の45分でした。パネリストの生徒は「意見を出し合うことが楽しかった」「私の中のぐちゃぐちゃが少しイメージできた」など充実感をもち振り返りを発表しました。藤森先生からは「『学ぶ』って何だろうと、『学び続けなきゃ』いけない」、村瀬先生からは「『ちがひ』があっていい。『学び』には『勇気』も必要」というエールももらい、会は終了しました。

藤森先生・村瀬先生の考える「学び」 とは？



「学び」とは、
自分の宇宙を
ふくらませて
いくこと

藤森裕治 先生
ふじもり ゆうじ
(文教大学 教授)



「学び」とは、
未知(なるヒト・コト・モノ)
に心と身体を
開くこと

村瀬公胤 先生
むらせ まさつぐ
(麻布教育研究所 所長)

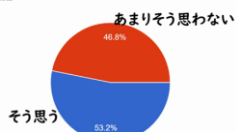


事前アンケートの結果 はコチラ



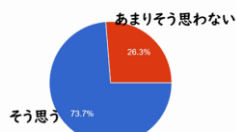
「学び」は「教わる」こと？

491 件の回答



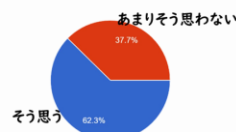
「授業」は「受ける」もの？

491 件の回答



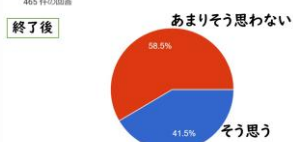
「宿題」は「与えられる」もの？

491 件の回答



「学び」は「教わる」こと？

465 件の回答



「授業」は「受ける」もの？

465 件の回答



「宿題」は「与えられる」もの？

465 件の回答



終了後のアンケートの 結果はコチラ



終了後のパネルディスカッション振り返りはコチラ（全校生徒からの自由記述より）

色んな人の考え方を聞くことができて、いい機会になったし、意外に楽しかったです。

何をするのかわからなかったけど、やってみてパネルディスカッションこそが学びだと思った。

自分以外の人意見も聞いて、得意な勉強方法なども人それぞれ違うということがわかったので色々な方法で勉強して自分にあう勉強で勉強したほうが良いとわかったので良かったです。

話の意図、内容がさっぱり意味わからなかった。

パネルディスカッションのお陰で自分の学びの考えが変わってよかった。

一人一人がぜんぜん違う意見を持っていて、それを自分の意見と比べてみるのが面白かったです。人それぞれに価値観はあってそれを大切にしていきたいと思いました。

隣の友達と話し合ったりしてみても、今まであまり深く考えたことがないようなことを真剣に考えてみて、「今まさにこの時間が学びなんだな」と思えた。

色んな人と普段話さないような話題で話して色々な意見を聞いて楽しかった。

前に出て話していた人たちと自分の意見が全然違って面白かった。

従来の集会などと比べて、自分たちも参加している感じがあって一方的でない感じがしたし、討論番組を見ているみたいで新鮮だった。

【参観者のアンケート用紙から】

- 普段の授業...一方的になってしまっていることがある...と以前から指摘されていましたが、改善しなくては!!と痛感しました。（教員）
- 大変難しい課題であったが、生徒たちは明るく、はっきりと自分の意見を話していた。浅間中学校に通っていてよかった。ありがとうございます。（保護者）

実行委員のみなさんの活躍

会の準備、進行や当日の運営など、自ら考えて動いていました。まさに、「学び」の場。

- ◆ 「学ぶ」とは何かということを考え、意見を伝え合うとはどういう感じなのかなということもありましたが、結構楽しかった。こういう形で意見を伝え合うのはなかなかないので、貴重な体験ができた。（K）
- 実行委員をやって、自分からやるということが苦手だったけど、この機会ですぐ克服できたかも。（N）



会終了後、藤森先生と村瀬先生と話をしている実行委員とパネリスト↑

その後・・・



3年生の有志のみなさんとさらに深く「学ぶ」ということを考え合いました。2/14「勉強は「学ぶ」の中の一つのカテゴリー」「本質的な学びについて考え合いたい」「学びには一見関係ないこともある。知恵や発見も学び」「生活のなか全て学びじゃないか」「学び=遊びは理想だけど...」「学校というカリキュラムの中で学びはできるのか」「そういう時間を作って学びを体験する機会にしたい」・・・議論はつきませんでした。生きるということは考え続けること、学び続けることなのかもしれません。私たちは、どう学ぶのか？これからも楽しく学んでいきましょう！

No Learning
No Life